

平成26年度学校経営計画表

【別紙様式1】

1 学校の現況

学校番号	2 9	学校名	茨城県立海洋高等学校				課程	全日制			学校長名	村田 一弘					
教頭名	田山 祐行										事務（室）長名	長戸 義徳					
教職員数	教諭	2 7	養護教諭	1	常勤講師	6	非常勤講師	2	実習教諭，実習講師，実習助手		1 0	事務職員	5	技術職員等	3 0	計	8 1
生徒数	小学科		1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合計クラス数				
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	海洋技術科		4 0	0	3 5	0	2 6	0			1 0 1	0	3				
	海洋食品科		1 9	2 1	2 1	1 7	1 4	9			5 4	4 7	3				
	海洋工学科				3 0	5	3 3	6			6 3	1 1	2				
	海洋産業科		4 0	0							4 0	0	1				
	専攻科遠洋漁業科		4	1	1	0					5	1	2				
	専攻科機関科		5	0	5	0					1 0	0	2				

2 目指す学校像

教育基本法及び本県教育の目標の示すところにより、豊かな人間性と人格の完成を目指し、社会の発展に貢献し得る、心身ともに健全な海洋技術者を育成する。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項 目	現 状 分 析	課 題
学習指導	海のスペシャリストになるという自覚を持ち、自らの興味・関心を高めて積極的に学習活動に励む生徒がいる。	水産・海洋分野の即戦力になり得る、より高度な知識・技能を身に付けさせる。
生徒指導	日頃の生徒指導が功を奏し、あいさつ、身だしなみ等の身に着いた生徒が増え、本校生徒に対する評判が良くなっている。	あいさつ、身だしなみの指導を重点的に推進し、地域から一層愛され、小中学生の手本となる。
進路指導	就職する生徒の約4割が水産・海洋関係企業への就業である。また、進学する生徒の半数が専攻科へ進んでいる。	地域企業との連携を一層推進し、水産・海洋関連企業への就職率をさらに高める一方、専攻科に代わる進学先を開拓する。
特別活動	生徒が学校行事や部活動の趣旨を理解して真摯な態度で参加し、自ら楽しむことができる。	生徒主体の自主的な集団活動をより活性化させる。

4 中期の目標

1	水産業並びに海洋開発に従事するスペシャリストを養成するための教育課程の編成を工夫し、生徒が主体的・意欲的に学習し、社会人として役に立つ人間力を育成する学校をめざす。
2	道徳教育を積極的に取り入れ、生徒の規範意識や社会性の育成を図り、予防的な生徒指導を実現する。
3	大学進学希望や就職希望など、生徒の多様な進路希望に応じ、個人面接や進路ガイダンスなどを行い、きめ細かな進路指導の充実を図る。
4	集団生活を通して、生き生きとした人間関係を築き、体育祭・海洋祭（隔年実施）やクラスマッチなどを生徒自らが計画・実行できるよう学校行事の内容の充実を図る。
5	地域との連携を図り、海洋教育の大切さを積極的にPRする。

5 本年度の重点目標

重 点 項 目	重 点 目 標
海洋高校生として身につけるべき基礎的技能・知識の確実な定着	きめ細かな学習指導、授業内容の工夫、評価方法の改善を通して、海洋技術者に求められる基礎的技能・知識の着実な定着を図る。
地域に信頼され愛される海洋高校生の育成	基本的な生活習慣の確立やあいさつの徹底、身だしなみの指導を通して、地域住民や地域の関係機関との関係を一層強固にし、信頼され愛される海洋高校性を育成する。
活気あふれる高校生活の演出	学校行事や特別活動を充実させ、活気ある学校生活を送ることにより、主体性のある人材を育成する。
地域産業の担い手の育成に向けた進路指導の充実	企業実習や資格取得、海洋系大学への進学指導等、キャリア教育の充実を図り、生徒の職業観・勤労観を育成する。
地域との更なる連携強化	地域行事への参加、近隣小中学生の体験学習の受け入れ、地域産業での実習等を推進し、地域に愛される人材を育成する。